株式会社 スズキ技研
フジクラグループ

〒285-0812　千葉県佐倉市六崎1440
(株)フジクラ佐倉事業所内　C工場

TEL:043-484-2185　FAX:043-484-0981
https://www.sg21.co.jp

VEGETABLE OIL INK
この印刷物は、環境に配慮したインキを使用しています。

LRQA CERTIFIED UKAS
ISO9001·ISO14001認証取得

1904⑩

会社案内

CORPORATE PROFILE

フジクラグループ

株式会社 スズキ技研

輝きを増す“光”の時代へ。
“つなぐ”テクノロジーを通じ
顧客の価値創造と社会に貢献します。

Prop the Next Communication

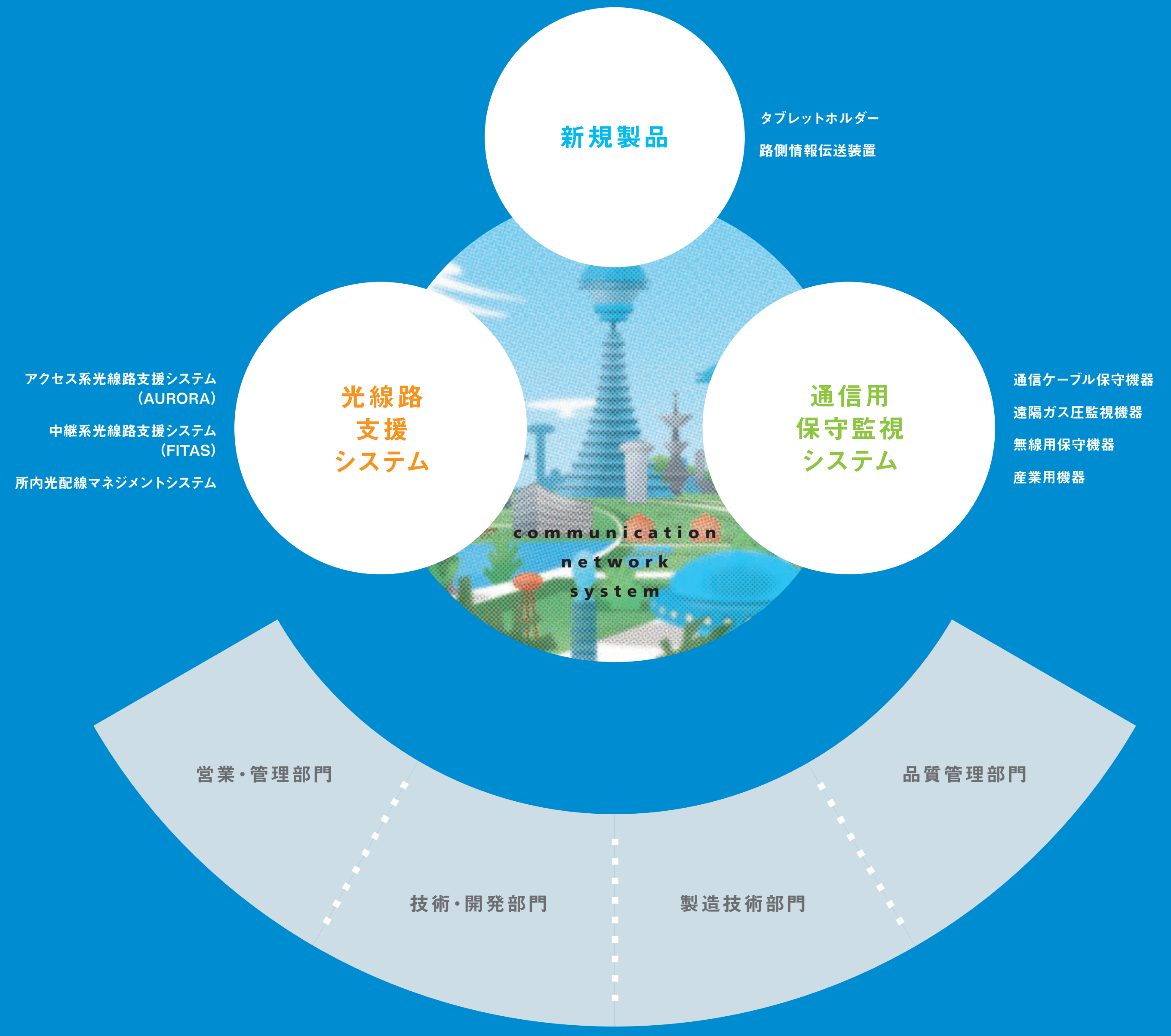
IPネットワークの拡大や光ファイバー網の整備など、大容量化を続ける通信ネットワークは、
暮らしを支える第4のライフラインとして社会的重要性をますます高めています。
進化したネットワークは、高速インターネットやIP電話、FTTHによるコンテンツ配信など、
今までにない高度で楽しいサービスを次々と実現し、
21世紀にふさわしい快適な通信環境を、いよいよ現実のものとしています。
通信回線の保守管理システムにおいて80余年の実績をもつスズキ技研は、
定評あるメタル回線保守の技と、磨きあげた光通信回線の技術力で
こうした〈高度情報ネットワーク社会〉の構築へ大きく貢献。
つねに未来を見据え、“つなぐ”テクノロジーの分野で、社会の豊かな発展を支えています。

社長挨拶

スズキ技研は、1933年の創業以来、通信ケーブルの保守システム、
光アクセスネットワーク用部品・機器、保守サービスをご提供し、社会に貢献して参りました。
情報通信の分野では、ビッグデータやＡＩ、5GなどのＩＣＴ技術によって様々な社会的課題の
解決が求められており、それを陰で支える情報通信インフラの役割は、益々重要になっています。
当社は、フジクラグループの一員として、“つなぐ”テクノロジーを通じ、
これからも顧客の価値創造と社会に貢献して参ります。
特に、工夫先行の創業精神をもって固有技術の向上と自己の研鑽に励むとともに、
顧客や社会の変化に対応した新たな製品やソリューションを開発し提供していく所存です。

今後とも、皆様の格別のご指導、お引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長
青柳　守

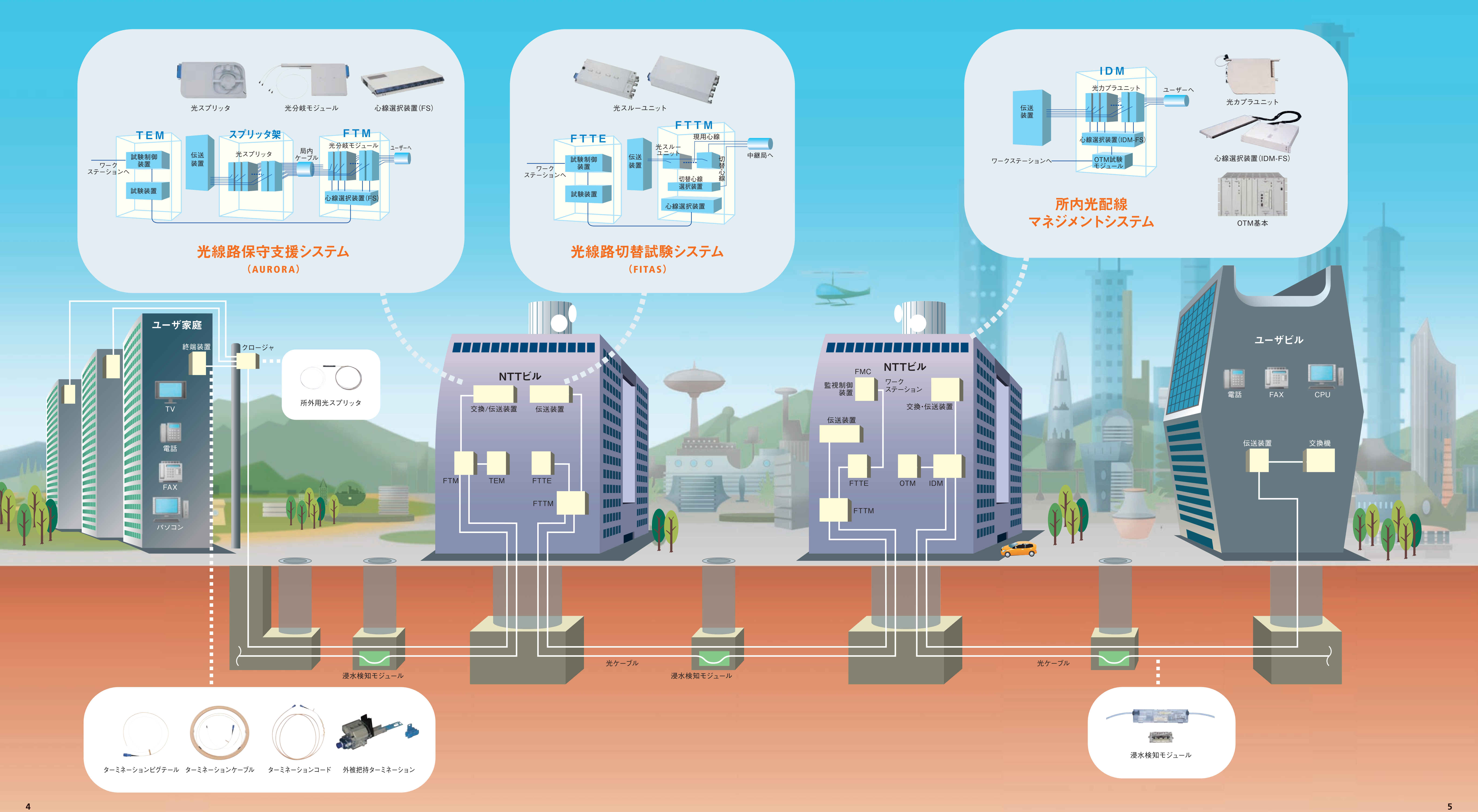


光線路支援システム

高度情報ネットワーク社会の大動脈、光通信回線の信頼性を高めます。

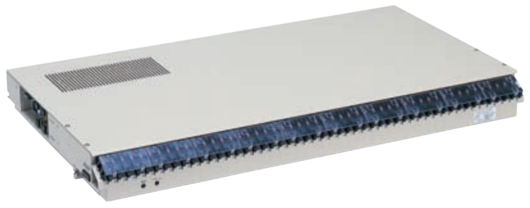
大容量通信を可能とし、通信媒体の主役となった光ファイバーケーブル。
スズキ技研では、その通信品質と信頼性を高めるため高度な光線路支援システムによる保守・管理技術を提供しています。
アクセス系の光線路保守支援システム〈AURORA〉と、中継系の光線路切替試験システム〈FITAS〉、
さらに所内光配線マネジメントシステムで障害を未然に防ぎ、光ファイバーネットワークの信頼性を支えています。

AURORA ： Automatic Optical Fiber Operations Support System
FITAS ： Fiber Transfer And Test System



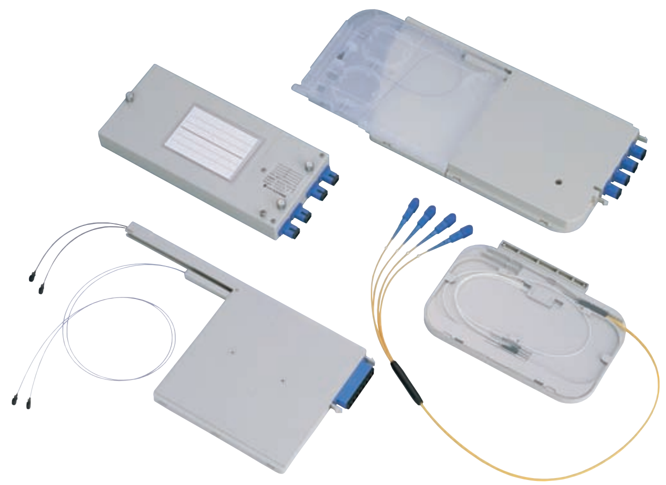
光線路保守支援システム

（AURORA）



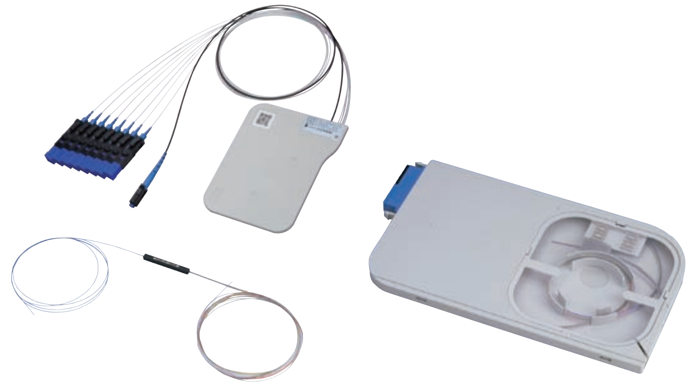
心線選択装置（FS）

光線路保守支援システムを構成する光ファイバ突合型の光スイッチです。
試験制御部からの指示により接続された光ケーブルの
任意の光ファイバ心線を選択できます。



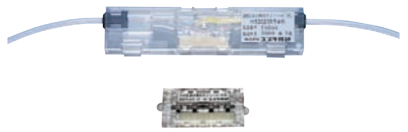
光分岐モジュール

光線路監視システムにおいて、
光通信回線に対して試験光の挿入および取り出しを行います。



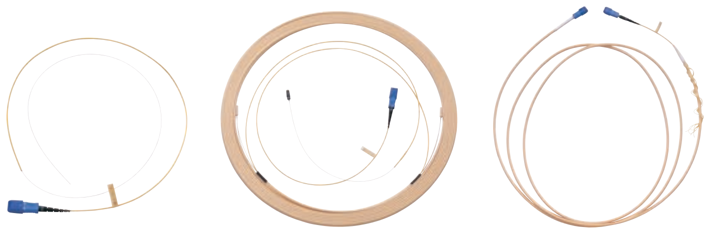
4分岐、8分岐スプリッタモジュール／所外用光スプリッタ／光スプリッタ

入力された光信号を複数の光ファイバに分岐するものであり、また、
複数の光ファイバから入力された光信号を結合するものです。



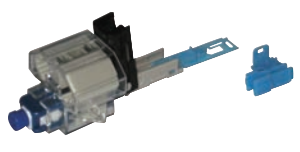
浸水検知モジュール

光ファイバケーブルの接続部に使用されます。
水が接続部に侵入すると、内部のファイバに曲げが生じ
ファイバの光損失が増加し、浸水を検知できます。



ターミネーションピグテール／ターミネーションケーブル／ターミネーションコード

ユーザ端末等の近傍に設置し、通信回線に挿入された測定用の試験光を遮断する波長選択機能を有し
通信回線が試験光の影響を受けないようにします。



外被把持ターミネーション

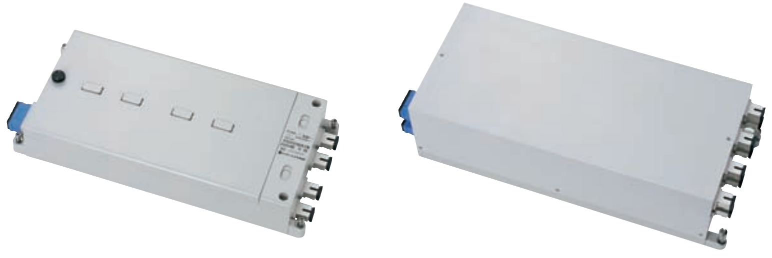
インドア光ファイバ等の先端に、容易に取り付け可能で
試験光遮断機能を有したプラグ型のコネクタです。

光線路切替試験システム

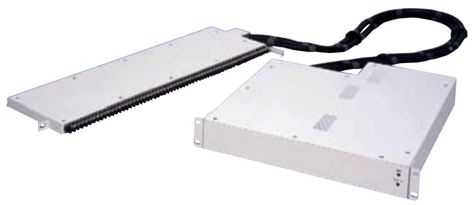
（FITAS）

光スルーユニット

成端された光ファイバケーブルの光ファイバ心線と
局内の光ファイバ心線とを接続するものです。



所内光配線マネジメントシステム



心線選択装置（IDM-FS）

高密度実装された1000心収容の光ファイバ突合型の光スイッチです。
試験制御部からの指示により接続された光ケーブルの
任意の光ファイバ心線を選択できます。

光カプラユニット

IDM架「A」に搭載されるノンフィルタタイプの光カプラユニットで
インサービス状態での試験アクセスを可能にするものです。

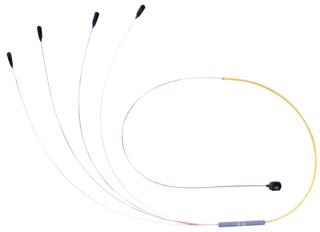
OTM2基本

サーバからの指示により架の選択、光試験を行い、
試験結果をサーバへ転送します。

その他光製品

ハンディ OTDR　OFL120

OFL120は、光ファイバ線路の断線や曲げ損失箇所などの
故障点を簡易的に検出できる装置です。
小型、軽量で持ち運びに便利で、初めての方でも簡単に
操作することができます。



光ファイバ変換心線

主にユーザ側に引き込まれた多心回線を単心に分割、
コネクタ種類の変換を行う分岐コードです。
4MTコネクタからSCコネクタ、1MTコネクタ、
2MPOコネクタ等への変換ができます。

基板型フィルタ

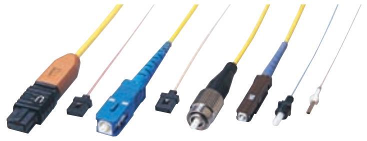
主に光通信回線に挿入された試験光を
遮断するために使用される
波長選択機能を有した
光ファイバテープ心線です。

光線路監視システム

光線路の試験および判定を行う
試験装置と試験結果を統合的に管理、
試験装置を遠隔から制御できる
管理装置から構成されます。
光線路の遠隔監視、遠隔試験、
センサと組み合わせた監視業務を行います。

Uリンク

光の通話用心線の端末（PD内）折り返しに用いられる心線接続用品です。



各種光コネクタ

SCコネクタ、FCコネクタ、MUコネクタ、MTコネクタ等
ご指定に応じたコネクタの取り付けが可能です。

保守用心線分岐接続用品

4MTコネクタ3個と光ファイバテープおよび
心線収納用品から構成されており、
加入者光ファイバケーブルの分岐点における
保守用心線のコネクタ接続用に使用するものです。

通信用保守監視システム

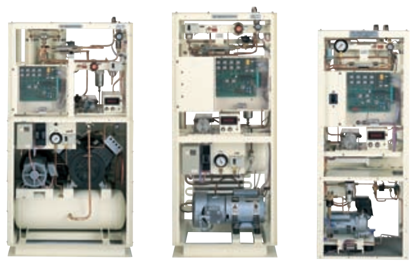
パイオニアとしての確かな技術でメタル回線の通信品質を守ります。

世界で初めて通信ケーブル用乾燥空気供給装置を開発したスズキ技研は、
メタル回線の保守監視システムのパイオニアとして業界最先端の技術に今なお磨きをかけています。
多くのお客様から絶大な支持をいただいている通信用保守監視システムは
通信用地下ケーブルや無線通信用給電線など既存回線の安定使用に大きな貢献を果たしています。

乾燥空気供給装置

簡易乾燥空気充填装置／導波管加圧装置／衛星通信用デハイドレータ

無線通信用導波管等に乾燥空気を供給して、
湿気の侵入を防ぎます。



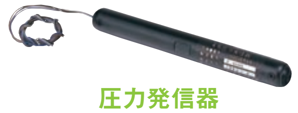
乾燥空気供給装置

通信ケーブルに乾燥した空気を自動的に供給し、ケーブル内の
圧力を大気圧より高く保つことにより、ケーブルへの湿気の侵入を防ぎます。

発信器

トータル流量発信器／ケーブル流量発信器

乾燥空気供給装置とケーブルの間に設置され、
ガス圧力監視装置からの呼び出し信号で、
ケーブルに供給している乾燥空気量を電気信号に変換して送出。
供給している流量変動からケーブルの異常をキャッチします。



圧力発信器

ケーブルの接続部など数km毎に封入または設置され、
ガス圧力監視システムからの呼び出し信号で、個々の封入点などのガス圧力を
電気信号に変換し送出します。又、ガス圧力遠隔監視装置により得られたガス圧力カーブから
微妙な空気漏洩点を特定することができ、障害を未然に防ぎます。

ガス分配器／ガス供給器／ガス圧力監視システム

ガス供給機50ＬＡ形　補助ガス供給部

ガス供給機50ＬＡ形／補助ガス供給部

信号・通信ケーブルに乾燥した空気を
自動的に供給し、
ケーブル内の圧力を大気圧より高く保つことにより、
ケーブルへの湿気の侵入を防ぎます。

ガス圧力監視装置

圧力発信器を介して、ケーブル内の乾燥空気（以下ガスという）の圧力を常時監視し、
1ブロック最大23個の圧力発信器から送られてくる最大4ブロックのデータを処理して、
ガス圧力値の表示及び警報ランプ表示と警報接点の転送を行います。又、ガス圧力遠隔監視装置により、
ガス圧力等のデータ収集と解析および漏洩点の推定、警報等の表示を行います。

クロージャー気密試験用 乾燥空気供給装置

ガスフラッシュテスター

クロージャーの気密試験に使用する、携帯用乾燥空気供給装置です。
クロージャーに応じて封入圧力を設定出来ます。
光クロージャーにも使用できます。

とう道監視システム

酸欠ガス感知器

地下とう道内部の酸素濃度をセンサで測定し、
酸欠状態なら警報を発し、事故を未然に防止します。

高水位感知器

とう道内の高水位を検出して、
警報を送出します。

産業用機器

冷凍、空調機器の配管溶接部・接続部からの
冷媒ガスの漏れを素早く的確に検知し、
冷媒の漏れによる市場での早期不良を防ぐことはもちろん、
冷媒ガスを『トレーサー・ガス』として封入することによって、
あらゆる容器の気密試験が行えます。

フロンガスリークデテクター（新冷媒対応）

多種類のフロンガスを対象に
検知します。

冷媒ガスリークデテクター（赤外線方式）

赤外線のガス吸入特性を利用し
特定のガスのみを検知します。

タブレットホルダー

作業時にタブレットを使用するシーンにお勧めです。
タブレットを見ながら両手フリーで作業が可能になります。

機器ごとの専用ホルダーを用意する必要がないので
作業者の要望に柔軟に対応できます。

使用例①

Windows、Androidタブレットに対応します。

使用例②

移動時にも邪魔になりません。

※対応機種についてはご相談ください。

路側情報伝送装置

弊社は、沖電気工業（株）および（株）フジクラと協力して
路側情報伝送装置（情報コンセント）を開発し
沖電気工業（株）を窓口として西日本高速道路（株）殿向けに納入しています。

高速道路の路側やPAに設置され、
事故や車両故障の際道路管理者へ連絡できるように一定間隔で非常電話が設置されていますが、
これに代わる設備として非常電話と情報伝送装置が一体化したものを開発しました。

これにより光ファイバ通信によって無線LAN、CCTVカメラ、
各種センサなどさまざまな用途で活用が可能になります。

Business Style

ネットワーク社会に貢献するという使命感と満足感が、活気ある社風を育んでいます。

つねに通信ネットワークという最先端技術に挑んできたスズキ技研には、
70余年の伝統が育んだ品格と、柔軟なチャレンジング・スピリットが同居した
豊かな企業文化が根づいています。
社会に貢献する責任感と充足感が社内全体に溢れています。

[生産体制]

**情報ネットワークを支える高品質・高信頼性の製品は、
スズキ技研の一貫生産体制から生まれてきます。**

TOTAL PRODUCT SYSTEM

営業・管理部門

お客様の要求を的確に調査・分析。
製品化に向け、開発・設計・製造部門のスタッフと共に
あらゆるシーンで活動を行っています。
さらに、コンサルタントとしてのスタンスも有しています。

技術・開発部門

スズキ技研のコア・コンピタンスである
通信ネットワークのテクノロジーは、
まさにここから生まれてきます。
戦略上の大きなポジションに位置付けられる
技術・開発部門では、
独創性の高い製品が開発されていきます。

製造技術部門

一人ひとりのスキルの高さと、
生産技術・生産管理の徹底追求が
製品の高品位のクオリティを約束します。
また、多様で高度な
ニーズへの対応を可能としています。

品質管理部門

スズキ技研の製品は、
つねに高品質、高信頼性を要求されます。
私たちは、お客様の満足を第一に考え、
充実した品質管理システムを構築し、
品質の維持向上に万全を期しています。

［企業活動］

スズキ技研は、情報社会を支える一員として品質の維持向上、環境保全、改善活動を通して、社会に貢献したいと考えています。

人材育成

新入社員教育

新入社員研修として、事業概要等の説明、社会人としての心得（マナー）をはじめ基本的な知識を習得するためのオリエンテーションを実施します。研修後、当社の要である製造現場で物作りの原点を学びその他基本的な業務知識を体得していきます。

社内研修

全従業員を対象に社内研修を行っています。社内の他部門との交流を深め、社員相互のコミュニケーションと共通の知識を身につけることを主たる目的にしており、研修を通して自らの立場でどう行動するかなど、業務に対する意識の高揚を図っています。

専門技術教育

社員の成長は企業の成長につながると考えている当社では、配属後OJTを通して仕事を学びます。各人の習熟度に応じて、より専門的な技術・知識の習得、スキルアップを目指した様々な外部講座を受講することができます。また、自己啓発として公的資格取得や通信教育にも積極的に取り組んでもらえるようにしています。

品質向上活動

ISO9001認証取得

『すべてはお客様が満足する品質のために』私たちが常に目標にあげているテーマです。その思いを継続するために、1997年にISO9001の認証を取得しました。従業員一人ひとりが品質第一の考え方を持って行動し、お客様の要求に応えるべく、品質向上に向けさらなる挑戦を続けています。

G-SPS活動

各部門でチームを編成し、部門間の隔たりなく共通の目的すなわち品質や作業環境面などさまざまな問題を取り上げ、チーム全員で話し合い解決することで社内の連携を強め、Q・C・D・Sに対する意識の高揚を図っています。

環境保全活動

環境型社会づくりに貢献するため、2000年にISO14001認証取得。『自然環境との調和と地域社会との共生を大切にします』をスローガンに、全従業員が環境保全活動に務めています。省エネルギーの推進、廃棄物の削減とリサイクル、有害物質の使用量の削減等、各部門がそれぞれ地球環境を保護するために最大限努力を尽くしています。